

全方位安全運転支援システム Honda SENSING 360+を発表 ～Honda SENSING 360 の全方位センシングに加え、 ドライバーの運転負荷をさらに軽減する機能を搭載～

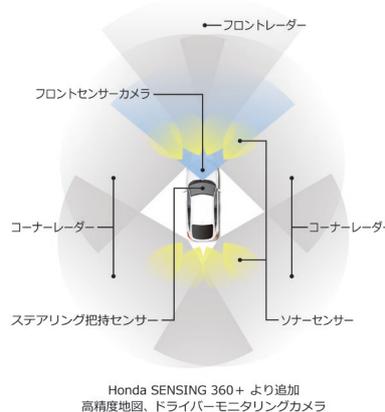
Honda SENSING 360+

Honda は、車両周辺の死角をカバーし、交通事故の回避やドライバーの運転負荷の軽減をサポートする全方位安全運転支援システム「Honda SENSING 360+（ホンダ センシング サンロクマル プラス）※1」を発表しました。

2022年に中国で販売されたCR-Vから搭載を開始したHonda SENSING 360は、フロントと各コーナーに計5台のミリ波レーダーを装備することで360度センシング※2を実現し、従来の運転では目視での確認が難しかった車両周辺の死角をカバーすることで、他の車両や歩行者との衝突回避や運転に伴うドライバーの運転負荷を軽減させることを特長とした全方位安全運転支援システムです。

Honda SENSING 360+は、従来のHonda SENSING 360の機能に加え、新たにドライバーモニタリングカメラ、高精度地図を採用することでドライバーの状態確認や、車両の制御機能が向上し、ドライバーの運転負荷を軽減させます。これにより、健康起因やヒューマンエラーで発生する事故を抑制し、全ての人が心から安心して自由に移動できることに加え、「積極的に出かけたい」「もっと遠くまで行きたい」と思えるようなクルマの提供を目指します。

Honda SENSING 360+は、2024年に中国で、「ACCORD（アコード）」から適用を開始します。その後、グローバルでの展開を予定しています。



※1 Honda SENSING および Honda SENSING 360、360+の各機能の能力（認識能力・制御能力）には限界があります
各機能の能力を過信せず、つねに正しい姿勢を保ち、周囲の状況に気をつけ、安全運転をお願いします

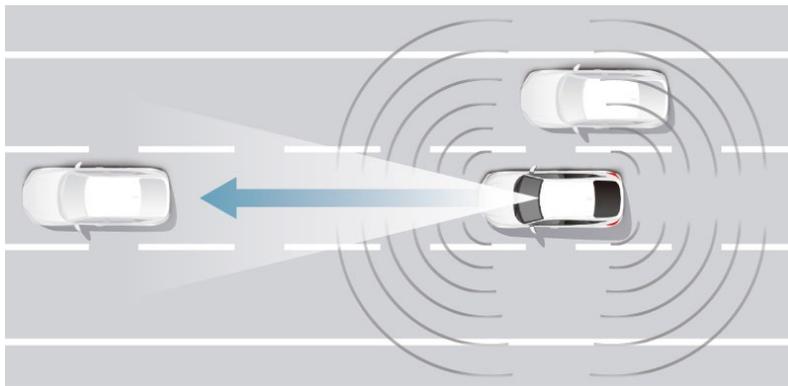
※2 Honda SENSING 360 の検知精度には限界があり、ドライバーの目視確認を不要とするものではありません

【Honda SENSING 360+の主な特長】

■ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能^{※3}

高速道路や自動車専用道を走行中に、システムがアクセル、ブレーキ、ステアリングを操作し、ドライバーがハンドルから手を離しても（ハンズオフ）、車速や車線内の走行を維持できるように支援し、ドライバーの運転負荷を軽減します。

高精度地図、全球測位衛星システム（GNSS^{※4}）を活用し、自車の位置を特定。先行車がない場合、ハンズオフでも設定した車速を保ちながら車線の中央を維持するように走行し、先行車がいる場合には、適切な車間距離を保って追従します。カーブでは曲率を前もって読み取り、曲率に応じた加減速を行うことで安心して運転できるように支援します。



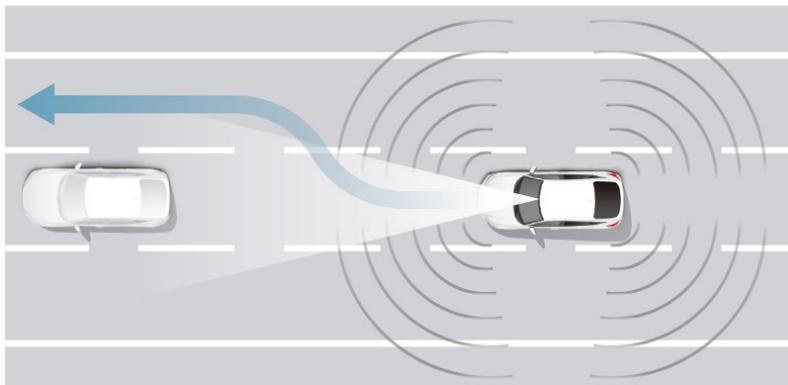
※3 国・地域によって機能に差異があります

※4 GNSSはGlobal Navigation Satellite Systemを指し、衛星測位システムの総称となります

■レコメンド型車線変更支援機能^{※3}

ハンズオフ機能付高度車線内運転支援機能で高速道路や自動車専用道を走行中に、自車より車速の遅い先行車を検知すると、一定の条件下でシステムが周囲の状況进行判断。追い越し可能と判断した場合、ドライバーに通知したうえで、ドライバーが手元のスイッチで追い越しを承認すると、ウィンカー操作や加減速、ステアリング操作を行い、追い越しや車線復帰を支援します。

さらに、経路誘導モードでは、ナビの経路案内にもとづき、目的地に向かうための車線変更を提案します。ドライバーの承認が得られると、システムが自動的に分岐進入、退出までの一連の車線変更を行います。



■カーブ路外逸脱早期警報

高速道路や自動車専用道でカーブを走行する際、即座に減速しないと事故のリスクがあると判断した場合に、警告や減速支援を行うことでカーブ路外逸脱事故の発生を抑制します。

高い速度でカーブに進入する際、メーターに「前方カーブ注意」を表示することで早期にドライバーに認知を促します。

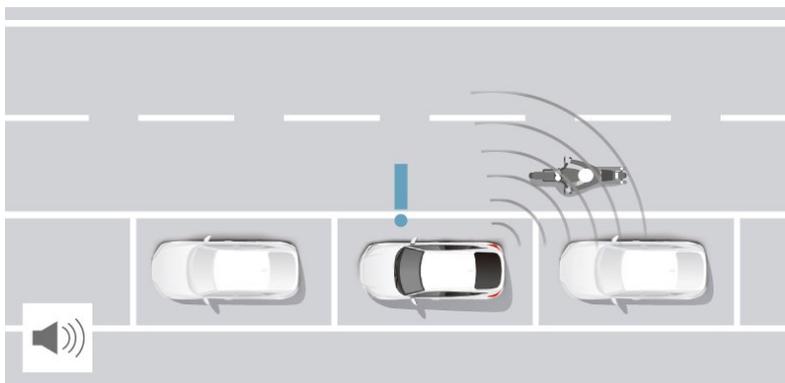
カーブに近づき、減速が求められるタイミングになると、警告音とヘッドアップディスプレイでの点滅表示により、ドライバーに減速を促す警告を行います。

さらにカーブに近づき、即座に減速が必要な場合は、より強く警告するとともにシステムが減速を行うことでカーブ路外逸脱事故の発生を抑制します。



■降車時車両接近警報

駐停車中、後側方に接近する車両を検知すると、フロントピラーもしくはサイドミラー上のインジケータを点灯させ、認知を支援します。さらに、乗員が開けようとしたドアが通過する車両と衝突するおそれがあるとき、インジケータを点滅させると同時に警報音で注意喚起をします。



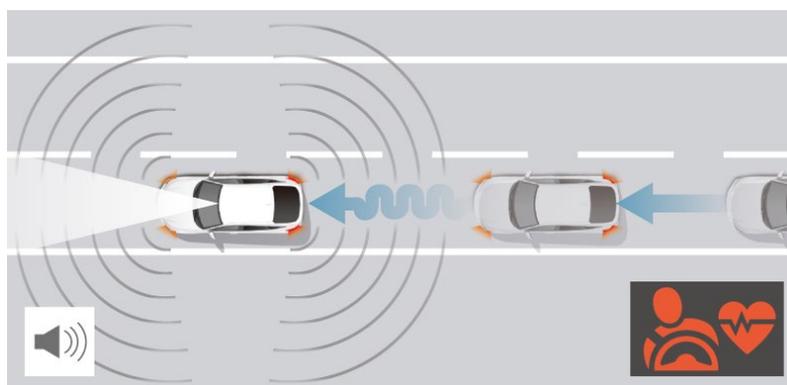
■ドライバー異常時対応システム

走行中にドライバーの体調急変などにより、運転を継続できなくなった場合、同一車線での減速・停車を支援します。

ドライバーがシステムからの操作要求に応じなかった場合、段階的に警告音を強めていき、ドライバーが操作要求に応じるように促します。

それでも応じなかった場合は、ハザードランプとホーンで周囲に注意喚起をしながら、同一車線での減速・停車を支援します。

さらに、緊急通報サービス (HELPNET®^{※5}) でコールセンターへ接続し、ドライバーや同乗者、周囲の交通参加者の安全を確保します。



※5 HELPNET® (緊急通報サービス) のご利用はアプリのダウンロードが必要です

【Honda の安全運転支援技術への取り組み】

Honda は道を使う誰もが事故に遭わない社会の実現を目指し「Safety for Everyone」のスローガンのもと、ハード・ソフトの両面で安全技術の研究開発に取り組んできました。

2050年に全世界でHondaの二輪車、四輪車が関与する交通事故の死者をゼロにするという高い目標を掲げて取り組んでおり、現在、量産車で展開をしている安全運転支援システム「Honda SENSING」は2014年の誕生以来、その機能を進化させながらグローバルでの適用を拡大し、さまざまなシーンにおけるお客様のドライブをサポートしてきました。

最先端の安全運転支援技術においては、2021年に自動運転レベル3に適合するトラフィックジャムパイロット（渋滞運転機能）を搭載した「Honda SENSING Elite（ホンダ センシング エリート）」を「LEGEND（レジェンド）」に搭載して発売したほか、2022年にはこの技術開発で培われた知見を活かした全方位安全運転支援システム「Honda SENSING 360」の展開を開始し、さらなる安全・安心を提供すべく機能進化を続けています。

これからも、二輪車と四輪車を手掛けるHondaならではの強みを安全技術の研究開発に活かし、“事故に遭わない社会”の実現をリードし続けるべく、真摯に取り組んでいきます。